



▲市民館まつりの展示。保美貝塚からの出土品に見入る子どもたち



▲芭蕉師弟三吟の句碑の説明を聞く歴史探検隊(潮音寺・福江町)

地域の話題

福江校区

学ぼう！地域の歴史

地域の歴史を学び、
まちづくりに生かす取り組みについて、
福江校区コミュニティ協議会からお便りが届きました。



福江校区では、福江校区まちづくり推進計画の主要施策の一つに「地元の歴史・文化の保全及び継承」を掲げ、さまざまな取り組みを行っています。今回は、「福江校区歴史探検隊」と「保美貝塚講演会」をご紹介します。

親子で「歴史探検隊」

保美貝塚や杜国屋敷跡などの遺跡・旧跡が多く残る本校区は、渥美半島の海上交通で栄えた福江港があるなど、歴史文化に恵まれた校区です。6月に開催した「福江校区歴史探検隊」には、34名の親子が参加しました。田原市博物館の学芸員と一緒に、校区の史跡・旧跡を探検した後、講演会や歴史クイズで校区の歴史を楽しく学びました。大人も子

どもも、学芸員の説明に熱心に耳を傾ける姿が見られました。

地域の誇り「保美貝塚」

10月の福江市民館まつりに併せて、「保美貝塚講演会」を開催しました。講演会では、保美貝塚の発掘に携わった国立歴史民俗博物館の山田康弘准教授に、発掘の成果をお話いただきました。保美貝塚は、縄文時代晩期の遺跡で、貝塚からは骨を四角く組んだ「盤状集骨^{ばんじょうしゅうこつ}」をはじめ、複数の埋葬法が同じ区画で見つかっています。会場内には、保美貝塚で見つかった骨なども展示され、子どもたちが興味深そうに見入っていました。校区としては、今後は活用だけでなく、大切に守っていききたいと考えています。



▲保美貝塚講演会で講師の話を熱心に聞く参加者たち

校区のシンボルマークとキャッチフレーズが決定

福江校区コミュニティ協議会では、校区内で募集したシンボルマークとキャッチフレーズから採用作品を決定し、福江市民館まつりでお披露目しました。

●キャッチフレーズ

「笑顔で元気なまち 福江」



▲キャッチフレーズとシンボルマークともに採用された白神和彦さん(保美町)の作品。笑顔と福江のFがデザイン化されています。